

KÄRCHER NEWS

ケルヒャーニュース

10 | 2018

KIRA

ロボット床洗浄機
新しい時代のクリーニングテクノロジー

Increases
the productivity.



清掃生産性を向上させます



表紙写真：創立 30 周年記念 ケルヒャーフェア 30

30
YEARS



30 YEARS



INDEX

ご挨拶

› Page 3

ケルヒャー ジャパン 30年のあゆみ

› Page 4

ケルヒャー フェア 30 開催

› Page 6

業務用製品トピックス

› Page 9

ケルヒャー ワールドニュース

› Page 10

家庭用製品トピックス

› Page 11

ご挨拶



2018年、ケルヒャー ジャパンは創立30周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年のご支援、ご愛顧の賜物と心より御礼申し上げます。

弊社は、ドイツ・ケルヒャー社の18番目の現地法人として1988年に設立されました。高圧洗浄機を中心とする業務用清掃機器の販売から始まり、2000年頃には家庭用市場へ本格参入、製品のラインナップや営業・アフターサービスの拠点を拡充しながら今日に至ります。当初、高圧洗浄機のような製品は日本の一般家庭では定着しないのではないか、と思ったことも何度もありましたが、このワクワクする「大人の水遊び」のような新しい清掃機器をお届けしたい、そんな想いを持ちながら、一步一步、事業活動を展開してまいりました。

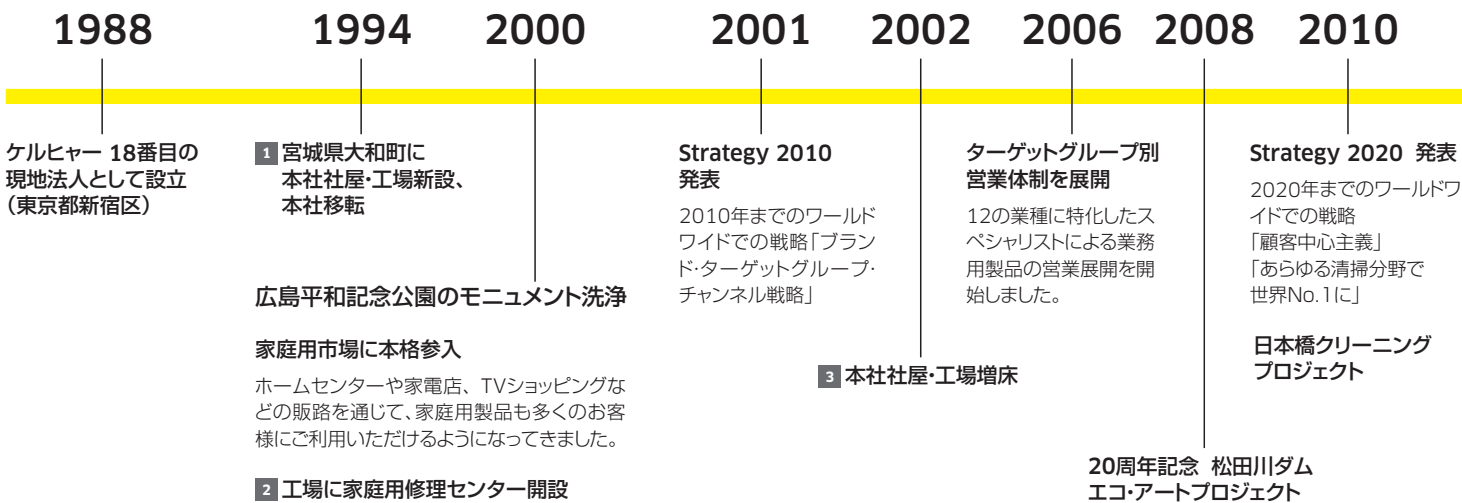
これまで、様々なご縁にも恵まれ、業務用、家庭用ともに少しずつ日本市場へ浸透させることができ、今ではお客様のニーズを反映した日本オリジナル製品の開発にも取り組んでおります。

昨今、社会構造が急速に変化していく中、清掃分野を取り巻く環境も大きく変わり、従業員の高齢化や人手不足など多くの課題を抱えています。こうした課題の解決に向け、新たな清掃ソリューションの必要性を強く感じております。9月に開催した30周年記念イベント『ケルヒャーフェア 30』では「Enter The Next Stage」をテーマに、新たな時代に向け、今後市場に展開される幅広いカテゴリーの製品を日本の皆様に一足お先にご紹介させていただきました。AI、IoTを搭載した床洗浄機、モバイル性を高めたバッテリー製品群など革新的な清掃機器、そして、産業設備に組み込むバキュームシステム、公共機関で活用できるロードスイーパー等、クリーニングイノベーションを通してお客様の清掃課題に貢献できればと考えております。

これからのケルヒャーの30年にご期待いただけるよう、生き残っていくためのキーワード「カスタマーセントリック（お客様中心主義）」をモットーに、お客様の声に耳を傾け、変化し続ける企業を目指してまいります。今後とも末永くご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
佐藤 八郎

ケルヒャー ジャパン 30年のあゆみ



宮城県大和町に本社移転



家庭用製品の販路拡大に伴い、ご購入後のアフターサービスを一括して行う体制を整えました。



増床した工場で行った記念パーティ。初披露したロボットクリーナーは注目のマトに

初期の製品

1988年当初に販売していた業務用高圧洗浄機。

HDS 610

1990年代の家庭用高圧洗浄機。

K 310

日本でも徐々に一般の方にもお使いいただけるようになってきた家庭用高圧洗浄機。世界では累計販売台数8,000万台を突破しています

日本のクリーニングプロジェクト

2000年 クリーニングプロジェクト 広島平和記念公園

日本初のクリーニングプロジェクトは、「広島平和記念公園」の9体のモニュメントでした。付着した大気汚染物質などの汚れを、業務用温水高圧洗浄機で丁寧に洗浄。平和のシンボルを洗浄・再生したことで市民の方から高い評価をいただき、ケルヒャーにとっても大変名誉な取り組みとなりました。



2008年 エコ・アートプロジェクト 栃木県 松田川ダム

高圧洗浄機で汚れを落とすことで絵を描く「エコ・アート」プロジェクトを、栃木県「松田川ダム」で実施しました。ダムに描かれたのは、地域を象徴するツツジの花。清掃メーカーとしての社会的貢献と、日本への新しいアートの紹介という文化活動を目的とした、ユニークな取り組みです。



2011

4 東日本大震災

ライフラインや物流が停止し、余震はやまず、不安な毎日が続く中、多くの方々のご支援と懸命な復旧活動により、地震の11日後から業務を再開することができました。

日本経団連に加盟

5 売上100億円達成

2013

6 25周年記念
静音モデルの高圧洗浄機
ペランダクリーナー発売

成田(千葉)、総社(岡山)に
物流倉庫を開設

ビジネス拡大に伴うサプライチェーン体制の強化を目的に、2つの倉庫を新たに開設。物流システムを刷新し、効率的かつスピーディに製品をお届けできる体制を整え、サービスレベルを向上しました。

2014

セントラルディスパッチ
全国展開完了

アフターサービス向上を目指し、各拠点で受け付けていた業務用製品の修理や技術的な問い合わせを、本社のコールセンターで一括して対応する体制を導入しました。

2017

7 横浜に本社社屋
新設、移転神戸ロジスティクスセンター・
修理センター・PDIセンター開設

総社の物流倉庫を神戸に移転。新たな物流・アフターサービス拠点を開設しました。

8 創立30周年記念イベント開催



支援活動:温水高圧洗浄機を使った給湯ボランティア、救援物資として業務用・家庭用高圧洗浄機の提供など、微力ながら清掃機器メーカーとして被災された方々をサポートさせていただきました。



さまざまな困難があった震災の年、社員一丸となって長年の目標を達成することができました。



日本の住宅事情に合わせ、音の静かな水冷式静音モデルの家庭用高圧洗浄機を開発しました。



横浜に本社移転



東京国際フォーラムでの単独イベント「ケルヒャー フェア 30」

2010年 クリーニングプロジェクト 東京都 日本橋

テスト洗浄を含め4年越しで実現した重要文化財「日本橋」を再生するプロジェクト。約6週間にわたって行われた洗浄では、川を汚染しないよう洗浄剤・化学薬品を一切使用せずに100年間蓄積された汚れを落とし、復元に成功しました。今後も、歴史ある建造物の美しさを次世代に継承していきます。



洗浄前と洗浄後の橋の様子を合成したイメージ



パウダー洗浄によるクリーニングの様子



プロジェクトを発表する記者会見

ケルヒャーフェア 30 開催

今年迎えた創立30周年を記念し、9月6日、7日の2日間にかけて、東京国際フォーラムで「ケルヒャーフェア 30」を開催いたしました。テーマは、「Enter The Next Stage “次のステージに向かって！”」。最新の清掃ロボットやバッテリーマシンといった革新的な製品のご紹介はもちろん、各業界のプロフェッショナルによるセミナーなどさまざまなコンテンツを催し、盛況を博しました。IoT、AIなどの新たなテクノロジーの台頭とともに、人口減少や高齢化といったさまざまな課題が生まれ、目まぐるしいスピードで変化していく社会。次の時代に向けたケルヒャーの新たなクリーニングイノベーションを体験していただく2日間、その様子をレポートします。



受付の様子

フューチャークリーニング

会場で最も注目を集めていたのが、新たに開発されたロボット床洗浄機「KIRA B 50」でしょう。2018年5月のアムステルダムでの公開に続き、同製品がお披露目されるのは世界で2番目です。床の洗浄から給水、排水、バッテリーの充電までを自動で行い、GPSを利用した「Fleet」と呼ばれるシステムで使用頻度やマシンの状態なども自動的に管理され、人手不足の解消やコスト削減に大いに貢献します。ブースでは、ドイツ本社が開発担当者によるデモンストレーションを実施。多くの来場者が足を止め、質疑応答も活発に交わされていました。「Enter The Next Stage」というイベントテーマの象徴ともいえる同製品は、清掃の未来への期待感をいっそう高めるものでした。



「KIRA B 50」に多くの来場者が注目。ロボット清掃機器への関心の高さが伺えました

パブリック

2030年までに、現在ある国土基盤ストックの維持管理・更新費は約2倍になると予測されています。そうした背景のもとにケルヒャーが掲げた大きな目標のひとつは、公共施設における維持管理費の削減です。

例えば、ケルヒャーが新たに提案する業務用シティックリーナー「MIC 42」は、多彩なアタッチメントを備えた多用途作業車。ひとつのマシンに必要な機能を集約することで、運用車両やコスト、人件費の大幅な削

減を見込みます。また、薬品を使わない温水除草や、機器が排出するCO₂の削減に取り組む、もうひとつの課題である環境問題の改善にも貢献。ユーザーと環境にやさしい製品の展開、普及に努めます。



新開発の路面清掃車は、実物大パネルを展示



芝刈り、スウィーパー、除雪と多目的に使えるMIC 42



薬品を使わず、温水によって根を枯らす温水除草

ビルメンテナンス

ビルの清掃機器のテーマは、バッテリー機能の搭載。現場の人員不足に対応し、省力化に向けてのラインナップが揃いました。



バッテリー式でコンパクトな床洗浄機



ハンディタイプのバキュームクリーナー

バッテリーテクノロジー

バッテリー技術は、家庭でもプロの現場でも清掃の効率化に欠かせません。これから続々導入予定のバッテリー製品をご紹介します。



家庭用もバッテリー製品ラインナップ拡充



製品間で互換性を持つ新型バッテリー

インダストリー

製造業の現場では、労働人口の減少にともない、作業の自動化や生産性の向上が昨今の課題になっています。そこでケルヒャーがご提案するのが、清掃のシステム化。製品単体だけでなく、周辺部材なども含めた設備システムの普及を通して、作業効率の向上に貢献します。ブースでは、工場向け設備「セントラルバキューム」を再現。各作業スペースに設置したノズルで切削屑などを吸引し、工場内にめぐらせた配管を通して1カ所に回収する仕組みを解説しました。また、再利用CO₂が原料のドライアイスを活用した洗浄機「ドライアイスブラスター」は、水や洗剤、溶剤を使用しない「エコ洗浄」を実現しています。他にもワイン樽洗浄の実演や、大型タンククリーニングの展示など、さまざまな独自技術をご紹介します。



産業用のセントラルバキュームシステム。(左)各作業スペースで吸引したゴミは工場内にめぐらせた配管を通り、(上)1カ所に回収される



ノズルが回転し、ワイン樽の中を一気に洗浄



ドライアイスブラスターの展示

アフターサービス

全国を網羅する保守ネットワークや、豊富な修理メニュー、エンジニアの技術認定制度など、安心の修理体制をご提供する取組みをご覧ください。



浄水器・空気

ケルヒャーは水も空気もキレイに！ウォーターディスペンサーと空気清浄機は、その最先端の技術も話題に。



ウォーターディスペンサー



空気清浄機

家庭用製品

電源・水道いらすの洗浄機「OC 3」、音の静かな高压洗浄機「K 2 サイレント」など、掃除を快適に、楽しくするアイテムがブースを盛り上げました。



プロフェッショナルによるセミナーの開催



株式会社 A and Live 代表取締役
(株式会社ジャパネットたかた創業者) 高田明氏

イベントでは、清掃をはじめ、各業界のプロフェッショナルを招いたセミナーを開催いたしました。基調講演にお越しいただいたのが、株式会社ジャパネットたかた創業者であり、株式会社A and Live代表取締役の高田明氏です。「夢持ち続け日々精進」をテーマに、常に“今”を生きてきたご自身の半生を振り返りながら、企業の在り方についてお話いただきました。

「人は、人のために生きてこそ。たった1台の掃除機が人生を変えることもあるんです。その製品でお客さまを喜ばせたいという信念を持ち、愚直に努力を重ねれば、何が起きても乗り越えられるパワーが企業に備わります」。当社の経営理念である「カスタマーセントリック（お客様中心主義）」とも相通じるものがある高田氏の言葉に、来場された方々も興味深く耳を傾けていました。



東京ビジネスサービス株式会社
東京ビルメンテナンス協会講師
小椋剛氏
「清掃業の安全対策、チャレンジ
KYT キケン発見シートの使い方」



日本空港テクノ株式会社
環境マイスター
新津春子氏
「世界一のカリスマ清掃員が語る掃除
へのこだわり」



アントイレプランナー
(世界初のトイレ専門企画会社)
代表 白倉正子氏
「トイレ掃除から始まる経営計画」



合同会社おもてなし創造カンパニー
代表 矢部輝夫氏
「新幹線清掃チームのやる気改革」



新日本ビルサービス株式会社
代表取締役社長 関根一成氏
「人手不足の時代における 5S による
人財育成、会社づくり」



前田建設工業株式会社 技術研究所
先進技術開発センター長 上田康浩氏
「建設業界におけるオープン
イノベーションへの取り組み」



豊田エンジニアリング株式会社
代表取締役会長 堀切俊雄氏
「人が変わる、会社が変わる Toyota
Way Management System」

メディア向け事業戦略説明会

当社代表取締役社長の佐藤による「ケルヒャー ジャパン事業戦略説明会」では、多くのメディア関係者の方々にご参加いただきました。これまでの30年を振り返りながら、事業を展開する上で大きなターニングポイントとなったカスタマープラットフォームの拡大、製品認知の拡大、日本橋クリーニングプロジェクトについてご紹介。その上で、次のステージに向けた取り組みについて発表いたしました。

労働人口減少や環境問題など、さまざまな課題を抱える現代においては、清掃分野でも革新的な戦略が必要になります。ロボット床洗浄機「KIRA B 50」の導入や設備・清掃プロセスのシステム化により労力やコストの省力化を、化学薬品を使わない清掃方法で環境問題へのさらなる取り組みを強化していく考えです。また、「カスタマーセントリック（お客様中心主義）」を軸にした事業展開を継承するとともに、自然災害に対する支援活動やクリーニングプロジェクトを通して社会との共生にも一層力を入れていく活動指針を発表し、ご清聴頂いた方々からも期待の声をいただきました。



日本初披露となる「KIRA B 50」はメディア関係者の方々にもご注目いただきました

清掃と最新のロボットテクノロジー

現在、あらゆる分野でデジタル化が進んでいます。とりわけ清掃業界においてはそのニーズが著しく、人手不足、コスト削減、そして何より清掃という単調な作業からの開放、それによって導かれる効率化のため、さまざまな製品が開発されてきました。その最たるものが、「KIRA」をはじめとする清掃ロボットです。

▶「Innovation Award 2018」最優秀賞受賞

アムステルダムで開催された清掃業界で最も権威ある展示会「InterClean 2018」において、ロボット床洗浄機「KIRA B 50」が「Innovation Award」最優秀賞を受賞しました。受賞にいたった大きな理由は、ドッキングステーションにより給水から排水、タンクの洗浄、バッテリーの充電までを自動で行う高度な自律性にあります。加えて、マルチセンサーが透明なガラスなども察知し、衝突を回避しながらの清掃を可能にする高い安全性にも評価をいただきました。



▶ロボット床洗浄機「KIRA B 50」とは

「KIRA B 50」は、マルチセンサーを搭載し、無人の自立走行が可能なロボット床洗浄機です。最新テクノロジーとともに、清掃機器専門メーカーとしてこれまで培った技術も応用し、安定した洗浄性能を実現しました。例えば粗ゴミを回収するプレスイープ機能、壁際の汚れを取り除くサイドブラシなどは、従来の床洗浄機にも用いられています。光学および音波によるマルチセンサーシステムを備え、高い安全性を保持しているのも特長です。さらに、バッテリーの充電、洗浄水の給水、汚水の排出、汚水タンクの洗浄を自動で行うドッキングステーションも革新的なシステムでしょう。遠隔管理システム「Fleet」を使えば、クラウド上にあるケルヒャーのシステムで、各機器の状態や保守のタイミングも把握できます。これら多彩な機能が、未来の清掃業界に貢献します。日本での市場導入は2019年後半を予定しています。



ケルヒャーでは清掃ロボットの基礎を早い段階で築き、1990年代には最初の業務用ロボット床洗浄機を開発しました。2008年までアムステルダムの空港で使用されていましたが、当時は高額で市場へ広く普及するには至りませんでした。その後、センサーシステムやナビゲーションなど基盤技術の発展と、人手不足によるロボット需要の高まりを背景に、自律性の高い全く新しいロボットの開発に着手。約6年間の開発期間を経て「KIRA B 50」が完成しました。



1990年代に登場した
ロボット床洗浄機
「BR 700 Robot」

ケルヒャーの考える未来の清掃スタイル

清掃分野でも、生産性の向上においてロボットの活用は欠かせません。しかしロボットは人に取って代わるものではなく、補完するものであると言えます。部屋を見て、必要な作業を見極め、段取りを組み、想定外の問題が起きた際には解決法を考える。清掃員が行うこうした一連のプロセスをロボットにさせるには、まだ時間がかかりそうです。そこで鍵となるのが、人とロボットそれぞれの異なる

能力をうまく組み合わせ、清掃プロセスに落とし込むことです。将来、単純作業はロボットが行う一方で、人は管理業務を担うことが増えるでしょう。清掃員の重要性はよりいっそう高まり、その価値の再評価にもつながっていきます。

さらにスマートデータの活用によって、必要な場所は掃除をする、必要でない場所は掃除しない、「オンデマンド・クリーニング」とも呼べるものが実現で

きます。効率化による清掃品質の向上もまた、大いに期待できる点でしょう。



フランス人は歌いながら掃除するって本当？

国によって掃除の仕方や考え方に違いはあるのでしょうか？今回、アメリカ、イギリス、中国、ドイツ、日本、フランス、ブラジル、ポーランド、ロシアの9カ国、計9,125人を対象に、自宅の掃除に関するアンケート調査を実施しました。結果から見える各国の掃除をのぞいてみましょう。



アートなクリーニングプロジェクト

リバースグラフィティとは、壁や道路に付着した汚れを高圧洗浄機などで取り除いて生まれるアートのこと。2018年5月、世界遺産に登録されているドイツの古都バンベルクにかかる橋「Untere Brücke」で、リバースグラフィティによるクリーニングプロジェクトが実施されました。プロジェクトは、松田川ダムの洗浄でもその手腕を発揮したドイツ人アーティスト、クラウス・ダオヴェン氏をはじめ、地元のコレクターなど多くの方々の協力で実現しました。洗浄作業では業務用高圧洗浄機を使用し、藻や苔を丁寧に除去。ダオヴェン氏は各地でその土地に住む人々を描くリバースグラフィティに取り組んでおり、今回も、モチーフには地元の学生たちが選ばれました。橋は美しく再生され、新たなアートとして歴史ある街に溶け込んでいます。



業務用冷水高圧洗浄機「HD 9/23 G」を使った洗浄作業

お掃除の人にありがとうを言おう

Thank Your Cleaner Day 2018.10.17

Thank Your Cleaner Day は、私たちの身のまわりを清潔に保ってくれる清掃会社や清掃員の皆さんに感謝を伝える日です。普段なかなか目の見ることがない清掃業への認識を高める目的で2015年にニュージーランドのビルメンテナンス協会がスタートしました。このプロジェクトを世界的に展開するため、パートナーとして選ばれたのがケルヒャーでした。

4年目を迎えた今年も、世界各地で「ありがとう」の声掛け、メッセージカードやお菓子のプレゼント、朝食会やバーベキューの開催など、さまざまな活動が実施されました。皆さんも日頃お世話になっているお掃除の方に感謝の気持ちを伝えてみてはいかがでしょうか。



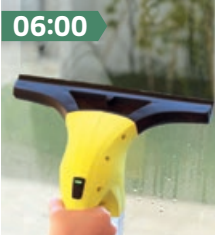
手軽にできる新習慣 ケルヒャー活用術

ケルヒャーの家庭用製品には、気づいたときにさっと使える簡単掃除にぴったりなクリーナーが各種あります。忙しい平日は手軽なクリーナーを、週末にはしっかり汚れを落とすクリーナーも取り入れて。シーンに合わせたアイテムでご家庭のお掃除習慣が変わります。

06:00 窓用バキューム
クリーナー WV 1

寒い冬の朝は窓が結露！カビの原因に

電動で水を吸引してあっという間に結露を除去。サッシに水が溜まることもありません。



07:30



スティッククリーナー KB 5


子供がコーンフレークをこぼしちゃった！

あっ！とこぼした食べ物も、これ1台でさっと一掃。掃除機より手軽にほうきより便利に使えます。

マルチクリーナー OC 3

雨上がりの玄関ポーチは泥だらけ

軽い泥汚れはこびりつく前にこまめに洗浄。水を入れて洗浄完了までたった5分！



平日タイムスケジュール

06:00 起床
07:00 子供を起こす
07:30 朝食
08:00 子供を幼稚園バスに乗せる
09:00 会社へ出勤
16:30 子供を幼稚園まで迎えに
17:00 夕食の買い物
18:00 帰宅
18:30 夕食づくり
19:00 夕食
20:00 片付け
21:00 入浴
22:00 就寝

18:00

帰宅して気づくフローリングのホコリ溜まり

排気ゼロのKB 5なら食事の前でもホコリが舞い上がりません。すぐに手軽にサッとキレイ。




スティックスチーム
クリーナー SC 1

19:00

ベタつくテーブルは夕食前に清潔に


高温スチームで洗剤を使わず食卓を除菌。SC 1は水を入れて3分ですぐに使えます。



20:00

夕食後はキッチンも手間なくキレイに

料理中の油ハネやこぼしたソースなどは汚れが軽いうちにSC 1で掃除。



21:30




入浴後はすぐに掃除、汚れを溜めずに毎日清潔

マルチクリーナー OC 3は手を汚さずに排水口のヌメリ汚れも除去。壁面の水滴はWV 1で吸引することでカビの発生を防ぎます。鏡のウロコ汚れ防止にも。

休日の活用例



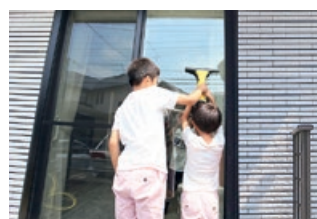
アウトドアにはマルチクリーナー OC 3

水道も電源もないアウトドアには、バッテリー式洗浄機が大活躍。



パパと一緒に高圧洗浄機で洗車！

週末のおでかけ後は、家族みんなで洗車。水遊びの感覚で楽しく洗車できます。



窓用バキュームクリーナーでお客様も楽しく窓掃除

スイッチオンで、楽々窓掃除。お子様と一緒に掃除を楽しみましょう。



週末のしっかり掃除にはスチームクリーナー SC 2

連続使用時間が長いキャニスタータイプで家中お掃除。浴室やフローリングはもちろん布製ソファなどにも。



パワフルだけど軽くて静か。

洗車はもちろん、洗うのが大変な網戸や窓、外壁や玄関などの外周りを、水道の約40倍もの高圧で根こそぎパワフル洗浄。音が気になる方でも、隣近所に気兼ねなく使える静音モデル。軽量化により持ち運びも簡単。誰でも手軽に使える高圧洗浄機です。

静音

NEW



ケルヒャー 高圧洗浄機 K2 サイレント

KÄRCHER

makes a difference